



2015年8月31日

バンコク爆弾テロ事件に遭遇して

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 主任研究員 福田 幸正

8月17日、月曜日、午後7時前、タイの首都バンコクで爆弾テロ事件があった。これまでに20人が死亡、日本人1人を含む128人がけがをするという大惨事となった。自分はたまたまバンコクに出張中で、爆弾テロの現場となったエラワン廟から1ブロックほど離れたバンコクの中心街のホテルに滞在していた。バンコクに到着した前日の夜は、近くの日本のデパートも入った大規模ショッピングモールの近辺を散策した。狭い歩道は夕食に繰り出した観光客と地元の人々でごった返し、車道はぴかぴかの日本車と二輪車で溢れ、横断するのは至難の業だった。日が沈んでもまだ漂う南の国特有の熱気とともに、あたかも街全体がうなりを上げながらエネルギーを発散しているようだった。アジアのダイナミズムを肌で感じながら、同時にどこか懐かしさをおぼえた。かつての成長期の日本もこんな空気がみなぎっていたはずだ。

爆発音は乾いた大音響だった。「爆弾!？」一瞬不安がよぎったが、次の瞬間、屋台のガスボンベの一つが破裂でもしたのだろう、と、都合よく自分を納得させていた。自分は屋内にいたが、爆弾テロ事件の知らせを聞いたのは、それから一時間ほど経ってからのことだった。

翌日以降は、用心して車で移動することにした。タイ人に聞くと爆弾テロ事件のせいか普段より交通量は減っているという。渋滞で有名なバンコクと聞いていたが、スムーズに面談先をまわることができた。郊外の面談先からの帰り、中心街に向けてタクシーを拾おうとしたが、爆弾テロが不安なのか、なかなかつかまらなかった。18日にも二度目の爆弾事件があったが、死傷者はでなかった。自分が見る限り、未曾有の爆弾テロ事件にもかかわらず、タイ人は平静さと微笑を保ち、あたかも何もなかったかのように街にはすぐに喧騒が戻っていた。

途上国では、時折わけのわからないことが起こる。だから途上国なのだ、と。そんなレッテルを貼られないためにも、タイ当局には早期の真相究明を期待したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。